



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-18. 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586020101	科目番号	05860201
授業科目名	●現代の教養 I (自然の科学)		
編集担当教員	中西 弘樹		
授業担当教員名(科目責任者)	中西 弘樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中西 弘樹		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]SCS		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	hiro-nak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部4階407号室		
担当教員TEL	829-2334		
担当教員オフィスアワー	4:00-6:00pm		
授業のねらい	生物の暮らしについての基礎的な知識を身につけるだけでなく、自然観、生命観、生物に対する尊厳などの考えができ、それを基にヒトに対する見方も変われることをねらいとしている。		
授業方法(学習指導法)	講義が中心であるが、補助的にビデオを使って理解を助ける。基礎知識については板書をし、まとめる。		
授業到達目標	生物の暮らしについての基礎的な知識が身につく、生物の行動や暮らしを説明できる。ヒトの行動を生物学的にもとらえることができる。		
授業内容	生物の暮らしに関する事柄について、興味深い3つのテーマについて講義する。すなわち「体内時計」「動物の行動学」「生物どうしの関係」である。		
	16回目に試験は行う		
	回	内容	
	1	Intoroduction:生物とは?、生物学とは? 鳥の渡り	
	2	鳥の渡りの研究し、鳥の定位	
	3	動物の体内時計1	
	4	動物の体内時計2	
	5	ヒトの生活とリズム	
	6	時計生物学、体内時計のまとめ	
	7	ミツバチの行動学:帰巣本能	
	8	ミツバチの行動学:情報伝達	
	9	ミツバチの行動学:色と香りの識別	
	10	魚類の行動	
	11	他の動物の行動	
	12	生物どうしのつながり	
	13	被食と捕食の関係	
14	動物と植物の共生:花とポリネーター		

	15 動物と植物の共生: 動物による種子散布
	16
キーワード	共生、動物の行動、体内時計、生物のくらし
教科書・教材・参考書	「種子はひろがる」中西弘樹著、平凡社 「動物と太陽コンパス」桑原万寿太郎緒、岩波書店 「花に秘められたなぞを解くために」田中 肇著、農村文化社
成績評価の方法・基準等	試験の結果(80%)と授業への参加状況(20%)によって評価
受講要件(履修条件)	原則として前回出席すること
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	高校までのように暗記でなく、理解することを意識し、それが自然にできるようになり、自分の考えをもつことができる。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	授業の前には、前回の内容を思い出すためにも、ノートを見ておくこと



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-18. 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586019701	科目番号	05860197
授業科目名	●現代の教養 I (文化と社会)		
編集担当教員	勝俣 隆		
授業担当教員名(科目責任者)	勝俣 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝俣 隆, 飯塚 知敬, 福留 真紀		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全]新棟7		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	katumata@, iizuka@, fukutome@		
担当教員研究室	教育学部653(勝俣), 610(飯塚), 614(福留)		
担当教員TEL	2299(勝俣), 2313(飯塚), 2312(福留)		
担当教員オフィスパワー	各教員室のドアの掲示参照		
授業のねらい	人文科学を代表する文学・哲学・歴史学を専門とする3名が、それぞれの専門分野について、現代の教養として、必要な知識と能力、ものの見方、考え方等について、分かり易く解説し、受講者と共に考える授業を目指す。具体的には、日本の古典文学、西洋の哲学・倫理学、日本の歴史について、具体的な事例を基に解説し、受講者自身が考え、教員との質疑応答を通して、より深い理解に達することを目標とする。どの分野の講義についても、主体的に取り組んで、大学で学ぶものとしての要求される最低限の生きる教養を身に付けて欲しい。		
授業方法(学習指導法)	文学・哲学・歴史学のそれぞれの担当者が用意したプリントや画像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な事例に基づいて解説し、受講者は、その具体例と解説に基づいて考え、各自の判断と意見を持つことを目指す。受講者は、それぞれの担当者の指示に適切に従って受講されたい。出席は、それぞれの担当者の方法によるが、多数なので、基本的に、小レポートのような形で各自の意見・質問等を毎時の終わりに書いてもらい、出席を確認する。併せて、その小レポートの内容については、次回に、担当者がコメントする形を取る。但し、その具体的方法は、各担当者の方針で、変化があり得る。また、それぞれの担当者は5回ずつの講義を行い、5回目の講義の一部を使い、試験を実施する。		
授業到達目標	文学・哲学・歴史学の各分野において、担当者が用意した文字資料・画像資料等をほぼ正しく理解し、また、それらの資料から、自分自身が判断し、独自のものの見方を身に付けることを授業到達目標とする。例えば、文学の場合であれば、日本の文学の世界における意味が分かり、その代表的な作品の具体的な内容を理解し、文学と社会の関係について、その仕組みを理解できるといったことが最低限の到達目標であり、その上で、さらに、各自が、こうした見方も出来るのではないかとことまで考えることを最終的な目標としたい。高校までの暗記の学問ではなく、大学では、自分で考え、疑問に思ったことを調べたり考えたりして解決していくのだという主体的な取り組みが出来ることを目指す。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 勝俣担当 ガイダンス及び、日本の文学の特色について 2. 勝俣担当 上代の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 3. 勝俣担当 中古の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 4. 勝俣担当 中世・近世の作品の読解と鑑賞、その謎を解く 5. 勝俣担当 近代の作品と社会。及び試験。 6. 飯塚担当 哲学のはじまりとギリシア思想 7. 飯塚担当 中世の宗教と思想 8. 飯塚担当 近代の科学と思想 9. 飯塚担当 現代の社会と思想 10. 飯塚担当 まとめと試験 11. 福留担当 肖像画を読み解く(1) 12. 福留担当 肖像画を読み解く(2) 13. 福留担当 「鎖国」とは何か 14. 福留担当 島原の乱を考える 15. 武士と町人。及び試験。 		

キーワード	日本古典文学入門 謎解き 西洋哲学・倫理学史入門 時代背景 日本史入門 資料読解 真相探求
教科書・教材・参考書	各担当者から講義の際に具体的に指示される。
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加 2割 授業内容の主体的理解と応用 2割 小レポートによる思考力の判定 2割 試験による理解度の判定 4割
受講要件(履修条件)	文学・哲学・歴史学に関心があり、主体的に努力する意志のあること。
本科目の位置づけ	理系の人には是非受講して欲しい科目。
学習・教育目標	高校までの教科書通りの暗記中心の学習からの解放。講義に主体的に参加し、また講義内容に対して、常に疑問を抱き、批判的に思考できる能力。理系の人が大学生として、最低限持って欲しい文系的なものの見方を身に付ける機会としたい。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	文学・哲学・歴史学に関する図書を沢山読んで欲しい。





シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-18. 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586020501	科目番号	05860205
授業科目名	●現代の教養 I (芸術の世界)		
編集担当教員	三上 次郎		
授業担当教員名(科目責任者)	三上 次郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三上 次郎		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]SCS		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	mikami@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟 3階		
担当教員TEL	095-819-2344		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	現代人の教養として、芸術を理解・表現するための基礎を学ぶ。		
授業方法(学習指導法)	講義、鑑賞		
授業到達目標	ルネサンス期、バロック期、古典派の芸術(特に音楽と美術)について知識を得る		
授業内容	回	内容	
	1	芸術の定義について	
	2	ルネサンスの芸術(1)	
	3	ルネサンスの芸術(2)	
	4	ルネサンスの芸術(3)	
	5	ルネサンスの芸術(4)	
	6	バロックの芸術(1)	
	7	バロックの芸術(2)	
	8	バロックの芸術(3)	
	9	バロックの芸術(4)	
	10	バロックの芸術(5)バツハの世界	
	11	バロックからロココへ	
	12	古典派の芸術(1)	
	13	古典派の芸術(2)	
	14	古典派の芸術(3)	
	15	古典派の芸術(4)	
16	まとめ		
キーワード	音楽史、美術史、美学		
教科書・教材・参考書			
	5回、10回、15回終了時にそれぞれWebclass上で試験を実施する予定。但し実施できない場合はレポートの提出を3		

成績評価の方法・基準等	0点、30点、40点の割合で課す。
受講要件(履修条件)	特に無し
本科目の位置づけ	美術・音楽の基礎知識の習得
学習・教育目標	歴史的価値が理解できる
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.